

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.17



桜の季節が終わり、爽やかな新緑の季節を迎えました。今年には3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなり、コロナ前に迫る人出の回復があったとの報道もありました。ようやく明るい兆しが差し込んだと感じる一方、感染状況は一進一退が続いており、いまだ予断を許さない状況が続いています。引き続き、基本的な感染対策を講じながら、経済活動の回復と地域社会の再生に努めていきたいと考えていますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

★「SDGs」の理念と五所川原市の目指すべき姿

先日、五所川原工科高校において「五所川原市のSDGsの取り組み」というテーマで講義をさせていただきました。最近、よく耳にするこの「SDGs」は、2015年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標です。貧困、資源、エネルギー、環境、平和など17のゴールと169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない、持続可能でより良い社会の実現」を目指すものです。

「SDGs」の理念は地球規模の壮大なテーマですが、その中で、五所川原市として、今やるべきこと、目指すべき姿ということについて、私なりの考えを生徒たちにお話をしました。

今後、団塊の世代が75歳以上となり、総人口の約2割に相当する約2,180万人が後期高齢者となる2025年を数年後に控え、「高齢者への支援」が大きな課題となっています。地域が持続可能であり続けるためには、未来を担う子どもへの支援、そして社会活動を支える若い世代、特に子育て世代が、安心して働ける環境を整備し、「健全な地域社会の土台」をつくることが重要であり、これまで給食費や子どもの医療費の完全無償化といった経済的支援、子育て世代の働く場の確保など、子育て支援施策に注力してきました。

今後は、その土台の上に、高齢者をしっかりと支える

地域づくりをしていきたいと考えています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく安心して住み続けられることができるよう医療、介護、生活支援など、地域において一体的に支える「地域包括ケアシステムの構築」が重要であり、これは誰一人取り残さない持続可能な社会づくりである「SDGs」の理念にも通じるものです。

住んでいる地域、年齢、障害の有無などに関わらず、真に支援を必要とする弱い立場にいる人に光を当て、市民、事業者などさまざまな主体が一緒になって、共に支え合う「地域共生社会」を実現し、五所川原市の明るい未来につながる確固たる基礎を築いていきたいと考えています。

★高齢者等の「買い物支援」への取り組みを進めます！

高齢者など日常的な買い物に不自由している、いわゆる「買い物難民」と呼ばれる方は、全国に約700万人もいるといわれています。

市では、こうしたお住まいの事情や交通の足が無いなどの理由から買い物にご不便がある方への支援策として、移動販売等の事業者への支援を今年度より開始します。

思い思いに商品を手にとって買い物をする、近所の仲間と会話をするといった生活の中の「楽しみ」を残しつつ、支援できればと考えています。また、「買い物支援」を行うと同時に、地域における重要な「見守り役」として活動することで、安全・安心な地域コミュニティづくりにつながることを期待しています(3、10ページ掲載)。

★「産直メロス」がグランドオープンしました！

リニューアルを進めてきた金木観光物産館「産直メロス」が、4月29日に待望のグランドオープンを迎えました。大型連休中は市内外から大変多くの方々にお越しいただき、大盛況でした。改めて、出荷者の方々、地域の皆さん、関係各位には感謝を申し上げます。今後も長く地域に愛される施設として、発展し続けることを願っています。



『五所川原工科高等学校の講義』の様子



『産直メロス』グランドオープンセレモニーの様子